清流

復活へ 大和川の挑戦 ⑤

「日本一汚い川」からの脱却

環境学習拠点めざす

県浄化センター

県は子どもたちに水質改善の大切さを理解してもらうため、小学生を中心に下水道浄化施設の見学を受け付けている。見学できる施設の一つで、大和川右岸十五市町の下水を処理している県浄化センター（大和郡山市額田部南町）は、下水道に関することだけでなく、河川環境に関する学習・情報発信の場、環境のことなら何でも分かる「環境学習の拠点」を目指している。

同センターは昭和四十九年六月に供用を開始。主に小学生の見学が多く、昨年は約三千人が訪れた。春、秋の遠足シーズンが多いという。そこで今回は、同センターをこのほど訪れた橿原市立晩成小学校（西松実校長）四年生四十六人の見学の様子を紹介する。

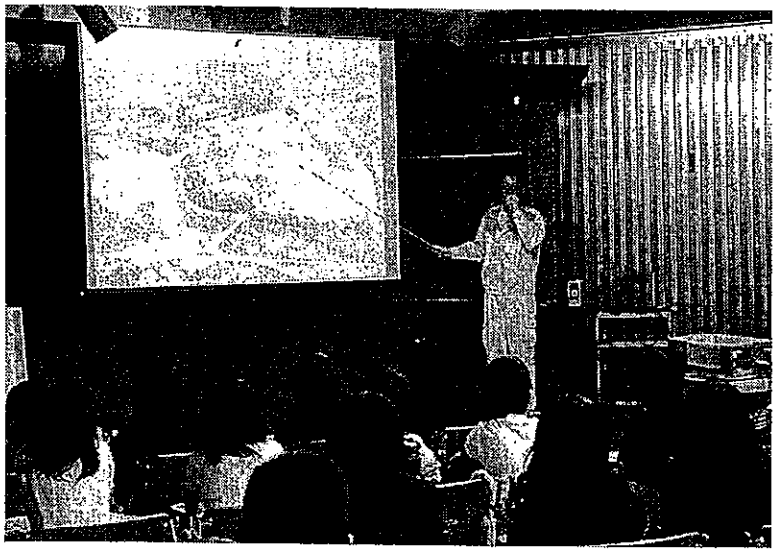
一行はまず研修室で、パソコンのプレゼンテーションソフトを使った説明を受ける。下水道や浄化センターの役割、生活排水が身近な川に及ぼす影響、そして大和川の現状・水質についても分かりやすく解説。生徒たちは「クイズ形式もあって面白かった」「汚れを食べる小さな微生物が水をきれいにしてくれることには驚き」などと好評だった。

大和川の汚れは、生活排水の割合が大きく影響している。「ごみを捨てない」「ごみはみんなで拾おう」といった川の美化はもちろん、「食事は残さない、ふき取る、流さない」「台所の流し台は河川への入口というイメージをつかんで」など家庭での地道な取り組みが水質改善につながることを職員が訴え、「家の人にも伝えてください」と呼び掛けると、児童らは大きくうなずいていた。

この後、グループに分かれ、最上階展望台や二十四時間稼動の中央管理室、生物反応槽、最終沈殿池などを約一時間半かけて見学。「排水が施設に入ってきて、きれいになるまで十四、五時間」「浄化センターの歩道のレンガは汚泥を焼却した灰をリサイクルしたもの」。案内役の職員も熱心に説明していた。

「水のことをいっぱい知ることができてよかった」「魚とかがすみやすい川にしなければ」。児童らはこの日の学習で大きな収穫を得たようだ。

＝毎月1回、下旬に掲載＝



浄化センターについての説明を聞く児童ら＝大和郡山市額田部南町の県浄化センター

H21. 5月29日(金) 奈良新聞 朝刊